

# 分けへだてをなさない神

2014年1月12日 使徒の働き10章34節から38節

10:34 そこでペテロは、口を開いてこういった。「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、10:35 どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるのです。10:36 神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にみことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすべての人の主です。10:37 あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事がらを、よくご存じです。10:38 それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。

愛する兄弟姉妹の皆さん

2014年1月も半ばに入りました。今年は皆さんにとって、この教会にとってどのような年になるのでしょうか？それは誰にもわかりませんが、皆さんにとって、そしてこのあがない教会にとってもよい年になるように祈っています。今日の説教テーマは「分けへだてをなさない神」です。文字通り神様は分けへだてをなさない方です。私たちはどうでしょうか？私たち罪人である人間はえり好みをします。自分と相性の悪い人を遠ざけ、敬遠します。大人だけではありません。子供を見てください。誰に教えられることもなく好きなものを選び、嫌いなものを拒否します。自分の意見と合わない人をいじめたり、仲間はずれにしたり、無視することさえしばしばあります。クリスチャンであってもこのようなことが起こることがあります。しかし私たちの神はこのようないきをなさないのです。

使徒の働き 10 章はコルネリオと言う異邦人と〔ユダヤ人にとっての外国人〕その家族、友人たちに聖霊が下った話です。コルネリオはローマ軍の百人隊長でした。当時、イスラエルはローマ帝国に支配されていました。ローマ軍は一軍団約 6000 人で構成されており、イスラエルに兵隊を駐留させていました。隊長コルネリオの前に天使が現れて、「イエスの弟子であるペテロを家に招きなさい。」と告げました。この時はまだ、ユダヤ人にとって、外国人は汚れた者、部外者、神を知らない者として敬遠されていました。

28節でペテロはこう言っています。「ご承知のとおり、ユダヤ人が外国人の仲間にはいたり、訪問したりするのは、律法にかなわないことです。ところが、神は私に、どんな人のことでも、きよくないとか、汚れているとか言っってはならないことを示してくださいました。」

神はペテロに夢の中でこのことをお示しになり、ペテロはコルネリオの招きに応じました。神は信仰の扉を異邦人にも開放したのです。ホセア書ではこう言っています。「わたしは『愛されない者』を愛し、『わたしの民でない者』を、『あなたはわたしの民』と言う。彼は『あなたは私の神』と言おう。」（ホセア2:23）。

このときからユダヤ人と異邦人の区別が取り除かれ、主イエスにある真の信仰者は皆、クリスチャンの交わりにおいて平等な立場になりました。ペテロはこのときまで、「神の恩恵はイスラエル民族に限られているものだ。」と信じていました。しかし彼は今、神が、正直でへりくだった心を持つものに関心を持たれることを知りました。

「どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるのです。」

救いのメッセージはまずユダヤ人に送られましたが、ユダヤ人と異邦人の区別はなく、イエス・キリストはすべての人の主です。コルネリオも彼の家族や友人も、ペテロが37節で「あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事がらを、よくご存じです。」と言ったように、イエスの噂を聞いていました。このイエスのことを私たちも聞いて信じました。今ここで私たちがイエスを礼拝しているのは、神がユダヤ人と私たちを区別していないからです。もし神がユダヤ人だけを愛していたのなら私たち外国人に救いは来なかったでしょう。もしそうだったのなら私たちは今もお罪の中に生きていて希望もありませんでした。しかし神に感謝します。神は私たちを分けへだてなく愛してくださっているからです。神はイエス・キリストを異邦人である私のためにも、異邦人であるあなたのためにも遣わして十字架ですべての人の罪を負って死に三日目によりみがえりました。このことによって私たちが負うべき永遠の罰は取り除かれ、私たちは神の前で聖い者とされました。神と人間とに平和が訪れたのです。

私たちは神が分けへだてをなさらないで愛し、救ってくださったことに対してどのように感謝すればよいのでしょうか？それは私たちクリスチャンも隣人の分けへだてなく自分自身のように愛することです。聖書は「神を心から愛しなさい。そして隣人を自分自身のように愛しなさい。」と教えています。イエス・キリストはルカによる福音書10章25節の“善きサマリヤ人”のたとえ話を通して、分けへだてなく隣人を愛することを教えています（ユダヤ人とサマリヤ人は犬猿の仲でした）。

**10:30 「ある人が、エルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗どもは、その人の着物をはぎとり、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。10:31 たまたま、祭司がひとり、その道を下って来たが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。10:32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。10:33 ところが、あるサマリヤ人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、10:34 近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。10:35 次の日、彼はデナリ二つを取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』**

私たちも敵を愛することは難しく感じる場合があります。自分に対して好意的でない人や苦手な人などを愛するのは無理だと言う人もいるかも知れません。しかし、イエスはこのたとえ話で私たちにこう言っています。「**あなたも行って同じようにしなさい。**」私たちは神に対して毎日数え切れないほどの罪をおかします。神を忘れ、侮辱し、自分中心の生活をしています。そんな私たちを神はあわれんでくださり、愛してくださるのです。

神は私たちを分けへだてなく愛してくださったのですから、私たちも隣人に対して分けへだてなく愛することができます。それがたとえ外国人であろうが、考え方や意見が違っていてもです。ペテロの言ったことをもう一度読んで見ましょう。「**これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるのです。**」

2014年も神を恐れかしこみ、主の前で正義を行い、主に喜ばれる僕として忠実に信仰生活を送りましょう。隣人を差別することなく、分けへだてのない神の愛を心にとめて主イエスと共に歩んで生きましょう。アーメン